



甲子園を目指して練習に励む甲斐さん

輝いています

ひと

甲斐 陸斗 さん

高校野球埼玉県大会 秋春連覇

内なる闘志をバットに乗せて

「負 けたくないんです。絶対に」ともの静かに話す、昌平高校野球部3年生の甲斐陸斗さん（17歳・中央7丁目）。先月行われた春季高校野球埼玉県大会に1番打者として出場し、初優勝。秋春連覇を達成しました。

小学1年生のときに中央エージェンズに入団した甲斐さん。当時の指導者は「休憩時間も黙々と練習を続ける姿勢に、並外れた向上心を感じました」と懐かしそうに語ります。家に帰っても毎日300回のシャトル打ちをこなし、ミート力などを鍛えてきました。そのひたむきな野球への情熱でメキメキと上達し、中学時代に所属していた硬式野球チーム

の推薦で名門昌平高校に入学。どんなタイプの投手にも対応して芯で捉える技術を監督に買われ、2年生からは打線全体のムードを左右する1番バッターを任せられます。

そして迎えた今年春の県大会。順調に勝ち進んできた昌平高校ですが、決勝戦の相手は強豪浦和学院です。チームメイトから「陸斗が出塁すれば勝てる」と一身に期待を背負うその姿は、同じ負けず嫌いのWBC日本代表ヌートバー選手のようにです。いよいよ試合開始。先頭打者の甲斐さんは、ファーストストライクをレフト前にはじき返します。そのまま勢いづいた打線がつながり、先制のホームを踏みました。第2打席は3回。またも果敢に初球を振り抜き、ライト前に運ぶと、昌平打線はもう止まりません。この回一気に4点を追加して完全に試合の流れをつかみ、初の春季大会優勝を決定づけました。

「夏大会も優勝し、初の甲子園出場で昌平の歴史を塗り替えたんです。あどけない笑顔の瞳の奥には、確かな闘志がみなぎっていました。来月に迫った大一番。甲子園への最後の挑戦が今、始まります。」

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 巖にあり

—No.85—

本図は、東海道の各宿場にゆかりの歌舞伎を演ずる役者を、当時数え79歳で浮世絵界の大御所の三代豊国（歌川国貞、1786〜1865）が描き、当時33歳で「狂斎」と号していた暁斎が背景を合筆した錦絵シリーズの一枚です。豊国は日光東照宮の眠り猫などの彫り物で知られる名工・左甚五郎に扮した中村歌右衛門を描いています。暁斎は背景だけでなく、甚五郎が彫る、枠からはみ出す勢いの仁王像も描いていることが「惺々狂斎」の落款により分かります。



暁斎、三代豊国合筆「東海道五十三駅名画之書分 宮、鳴海」1864年 多吉板 大判錦絵

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます



詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください



河鍋暁斎記念美術館 開催中（25日まで）
企画展「御上洛東海道」シリーズ出版160年記念
暁斎の「東海道」展
同時開催 特別展「狂斎画譜」の世界」展

開 館 = 午前10時～午後4時
休 館 = 火・木曜日、毎月26日～末日
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳 細 = 同館 ☎441・9780



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年（1831）
～明治22年（1889）